部落解放第46回全国高校生集会 部落解放第58回全国青年集会 を合同でひらく

昨年12月20日、21日にかけて全国から628人が、和歌山県連から高校生13人、青年22人、事務局3人が参加し、第46回全国高校生集会及び第58回全国青年集会が大阪商工会議所でひらかれた。

はじめに、主催者を代表して組坂繁之・中央執行委員長が「第46回全国高校生集会及び第58回全国青年集会が初めて合同でひらかれた。全国の兄弟・姉妹のみなさん、また引率をして頂きました指導者のみなさん、大変ご苦労さまです。また、全高・全青それぞれの集会で1000人～2000人が集まっていましたが、少子化に伴っての子どもの減少もあり「全高・全青」合同でひらくことによっておおいに運動が盛り上がるのではないかと中央委員会の論議のもとで今回こうしたとりくみになった」とあいさつした。

次に地元開催として北口末広・大阪府連執行委員長から「第46回全国高校生集会及び第58回全国青年集会開催の地元として2日間、全面的に大阪府連をあげてみなさんをサポートしたい」とあいさつがあった。つづいて、大江恵子・大阪府民文化部長からあいさつがあった。また、各都府県連の代表者から全体発言され、和歌山県連から山本亮輔・青年対策部員から「和歌山県内で発生している差別事件や県内の青年を取り巻く現状」が報告した。全体会の最後に集会スローガン「ひろげよう仲間の輪」「深めよう仲間のきずな」を合言葉に、おこそうあらたな若者の創造」が提案・確認され全体集会が終了した。

和歌山県連の報告をする山本亮輔・青年対策部員

つづいて、高校生・青年が各会場にわかれて、第1分科会「高校生だからできる部落解放運動」（参加対象：高校生）、第2分科会「親の背中をみつめて、自分と向き合おう」（参加対象：高校生）、第3分科会「解放運動入門」（参加対象：高校生及び青年）、第4分科会「狭山事件入門」（参加対象：高校生及び青年）、第5分科会「Café しゃべり場 ～もっと知ろう 解放運動のこと 仲間のこと～」（参加対象：青年）、第6分科会「これって差別？これって人権侵害？」（参加対象：青年）、第7分科会「女性の青年部活動について」（参加対象：青年）、フィールドワーク「食品ロスと社会福祉を考えるフードバンクから学ぶ ―フードバンクのボランティア体験―」（参加対象：高校生及び青年）が参加し、2日間にわたり分科会がひらかれた。

性暴力センター和歌山「わかやまmine」設立1周年記念シンポジウム

12月6日プラザホープで、性暴力センター和歌山「わかやまmine」設立1周年記念シンポジウムがおこなわれた。

第1部で「性暴力～その後を生きる～」と題して、中島幸子・NPO法人レジリエンス代表は、性暴力は「犯罪」と認められなければならない。まったく知らない人から受ける割合は少なく、職場関係や親戚や家族といった身近な人からの性暴力が多い。性暴力は証拠が残らない可能性が高く、記憶が曖昧だと信ぴょう性が疑われてしまう。被害者はトラウマと恥、罪悪感で心と精神に深い傷を負ってしまうということが、自身のDV経験を含め語られた。

熱心に聞き入る参加者

第2部では「性暴力被害の現状と課題、こらから私たちにできること」をテーマに、性暴力救援センターの必要性や地方公共団体が運営するセンターとして2例目となるわかやまmineの設立経緯や状況についてトークセッションがおこなわれた。

青年部で狭山・現調

狭山現地調査を11月23日、埼玉県狭山市でおこない、県連青年部・高校生ら30人が参加した。

埼玉県連の菊地聡・書記局の案内で石川一雄さんが歩いた狭山市駅（旧入間川駅）や地元の神社で祭りがおこなわれていた場所、石川さんと被害者が自転車を押しながら歩いていた道、犯行現場とされている雑木林、現在、狭山現地事務所になっている石川さんの自宅にある万年筆がみつかったとされる鴨居などを現調した。

殺害現場とされている雑木林では、石川さんが被害者を強姦して押し倒し、手で首を絞めて殺害したとされているが、近くで農作業していたOさんは、被害者の悲鳴を聞いていない。また、石川さんの自宅にある鴨居で2回も家宅捜査されてもみつからなかった万年筆が、3回目の捜査でみつかった。その万年筆に石川さんの指紋はないなど、多くの矛盾が説明された。

最後に石川一雄さん、早智子さんを講師とした学習会で石川さんは、無実を訴え、現地調査及び学習会を終了した。

現調の説明をきく参加者

第15回和歌山・人権啓発研究集ひらかれる

第15回和歌山・人権啓発研究集会が1月28日、29日、白浜にあるホテルシーモアでひらかれ、県下から170人が参加した。

はじめに、野口道彦・和歌山人権研究所理事長から「今年は同和対策審議会答申が出されて50年、部落地名総鑑が発覚して40年という節目の年です。昨年12月には特定秘密保護法が施行され、なにを秘密にしたのかが秘密にされてしまうという物騒な社会になってきました。さらに、集団的自衛権を容認する閣議決定がなされ、戦争ができる国へと突きすすんでいます。一方、ヘイトスピーチが公然とおこなわれるなど、新自由主義が生み出した格差のしわ寄せをうける弱者が不安にかられ、マイノリティへの攻撃につながっているという屈折した社会になりつつあります。私たちは、差別を許さない共同体をしっかり築き、したたかに闘うため、ともに学んでいこう」とあいさつされた。

差別を許さない共同体を強化するため、ともに学ぼうとあいさつする野口道彦・理事長

春駒保存会のメンバーによる門付け

全体集会では、「地域に伝わる伝統芸能」、シンポジウム「地域で支える子育て」、シンポジウム、各方面からのとりくみが報告された。